

# 職員が生き生きと働ける環境整備をどう考えるか

最小の経費で最大の効果を挙げる手段となり、住民サービスの向上につながる



なかむら けんたろう  
中村 健太郎  
国民民主党田原市議団



## 市職員の働き方改革について

**問** ワークライフバランスの取り組みの現状は。  
**答** 全ての職員がそれぞれの希望するライフスタイルを実現しながら生き生きと働き、能力を最大限に発揮できる職場環境を整備することを目指し、年次有給休暇や男性の育児休業等の取得率向上、時間外勤務の削減に向けた取り組みを推進してきた。

**問** 時間外勤務を減らすための取り組みは。  
**答** 労働基準法に規定された月45時間、年間360時間の時間外勤務時間の上限規制を適用している。また、所属長に対し特定の職員に業務が偏らないよう業務分担の見直しを依頼するなど、組織として削減に取り組んでいる。

**問** 時間外勤務が一月に80時間を超えてしまう職員の健康管理の対策は。  
**答** 産業医による健康相談や、希望者には臨床心理士によるカウンセリングを実施するなど、心身の健康につながるよう対策をしている。

**問** 職員を適材適所に配置し、少ない人数で業務を効率的に実施するためにデジタル技術の活用がある  
と考える。今後のDXへの取り組みは。

**答** 既存業務をデジタル技術に置き換え、職員の負担軽減、効率化を図っていく。また、既に導入しているデジタル技術の活用範囲拡大を図るなど、絶え間なく新技術の情報収集に努めていきたい。

**問** 職員が生き生きと働けるような環境の整備について、市はどのように考えているか。

**答** 適切な職員数と適材適所の配置で職員が働きやすい環境を整えることが、最少の経費で最大の効果を上げる一つの手段となり、住民サービスの向上につながると思う。



**問** 本市の防災対策の現状の課題は。  
**答** 建物の耐震化・減災化対策への関心を高める取り組みの充実、救済ルートを速やかに復旧させる体制の整備・強化、避難所の環境や備蓄品の内容・数量の見直し、マンパワーの確保をどうするかを課題。

**問** 建物の耐震化・減災化をどう進めていくのか。  
**答** 普及啓発を強化するとともに、耐震化・減災化にかかると補助金制度を拡充し、推進に努めていく。

**問** 避難所の環境を見直すとのことだが。  
**答** 特に生活面や衛生面の対策を優先し、汚物を密封する機能を有した自動ラップ式トイレを配置していく。

**問** 備蓄品の内容、数を見直すとのことだが。  
**答** 支援物資の到達に差が生じる可能性や観光客の対応も考慮し、備蓄数量のバランスを見直していく。

## 被災地から学ぶ防災対策について

避難所の環境を見直すとのことだが  
自動ラップ式トイレを配置していく



ふるかわ みさか  
古川 美栄  
自由民主党田原市議団

